

化粧文化の移り変わり と化粧品市場の今後の展望

経営学部 経営学科

B5R11089 鈴木 奈々美

【卒業論文概要】

化粧は女性がするものである。そう思っている人が多いのではないだろうか。しかし、より美しくなるため、他人によりよく見られるため、憧れの人に近づくために化粧をする女性がいるのであれば、同じ理由で男性が化粧をすることも当たり前ではないか、と筆者は考える。すべての人が自由に化粧を楽しむことができる環境があれば、今より生きやすく感じる人が増えるのではないかと考える。また、男性化粧品の需要について明らかにすることができれば、男性化粧品市場の今後の拡大につなげることができると考え、本研究に至った。本研究は男女における化粧についての経験及び意識調査を主目的とした。本研究の具体的な調査内容は(1)化粧の経験、(2)化粧の目的、(3)化粧への興味である。さらに、筆者の考えるすべての人が自由に化粧を楽しむことのできる環境には、ジェンダーレス文化の進展も関連していると考え(4)ジェンダーレス文化への印象についても調査を行った。調査方法として、選択式と記述式の両方を取り入れたアンケートを作成し、データ収集を実施した。調査対象は文教大学の学生 206 名から回答を得た。アンケートの結果から、女性では 100%、男性では 12%が現在化粧をしていることが分かった。また、化粧をしていない男性の中で、化粧をすることに興味を持っている人は 24%いることも明らかになった。このことから、少しずつではあるが、男性の化粧への理解が進んでいると考える。これらの調査結果を踏まえて、今後の化粧品市場の展望、化粧行動とジェンダーレス文化との関係性について考察した。